



企画課

綿陽市から義援金 きずなを深めた4日間

綿陽市友好代表団来庄と 文化芸術団公演

市が友好協定を締結して
いる中国四川省綿陽市から、
陳興春副市長を団長とする
友好代表団6人と呉波監督
を団長とする綿陽市文化芸
術団員16人が、10月12日に来
日しました。

翌日、滝口季彦市長を表敬
訪問し、陳副市長から「四川
大地震の際には、庄原市をは
じめ多くの方々に助けてい
ただきとても感謝している。
今回、庄原市が豪雨により大
変な被害に遭われたと聞き、
綿陽市としても心ばかりの
ものを持参した。災害復興に
使ってほしい」と8000元(約
100万円)の義援金が贈呈
されました。

また今回、庄原市と綿陽市
との友好協定締結20周年記
念事業の一環として、約10年
ぶりに綿陽市文化芸術団の
公演を10月14日に庄原市民
会館で行いました。
市内の中学生1・2年生招

待した昼の部の第1公演は
約650人が、一般の方を対
象とした夜の部の第2公演
では、満席となる市民約
950人の方が鑑賞。次々と
披露される華麗で幻想的な
舞踊や演奏、歌謡に来場者は
魅了され、「川劇など有名な
舞踊や演劇を間近で見ると
とがで感激した。本場の中
国に行つて、ぜひ観賞したい」
などと話していました。

今回の20周年を契機に、綿
陽市とさらなる友好関係を
築き、この交流を次世代につ
なげていきます。



綿陽市文化芸術団



公演後に固い握手を交わす滝口市長と陳副市長



表敬訪問

生涯学習

史跡の発掘成果から 意見交換

四隅突出型墳丘墓の 起源をさぐるシンポジウム開催

平成20年度から広島
大学と共同調査を行つ
ている佐田峠墳墓群の
発掘成果をうけて9月
26日、「四隅突出型墳丘
墓の起源を探るシンポ
ジウム」を庄原市ふれあ
いセンターで開催しま
した。

四隅突出型墳丘墓は、
弥生時代の中国地方に
よく見られる特徴的な
墳丘墓(土を盛って造つ
たお墓)で、その多くが
国指定の史跡として保
存されています。

当日は、県内外から集
まった125人が傍聴
する中、各地域の研究者
や地元代表者らが、四隅
突出型墳丘墓の保存・活
用方法をテーマに、地域
での活用事例や今後の
計画について活発な意
見交換を行いました。

シンポジウム終了後
には、広島大学考古学研
究室によって、発掘調査
された佐田峠4号墓の
現地説明会が行われ、参
加者は熱心に耳を傾け
ていました。



遺跡の活用について熱い議論



現地説明会の様子



**林課
農振**

「食」と「農」の大切さを学ぶ
 食笑会(しよくしよつかい)in西城

食農ネットワーク庄原は、自然豊かな庄原市の旬な情報を「しよつかい」から里山の旬だより」としてポケット版にまとめました。この発行記念イベントとして9月25日、西城町しあわせ館で、「食笑会in西城」を開催しました。これは、安心安全でおいしい庄原産の農産物の魅力を多くの皆さんに知ってもらい庄原ファンを広めるのが目的です。



そばがきを作る参加者

市内外から参加した15人は、どんぐりコロコロ豚と旬の季節野菜のカポナータ(イタリアの伝統料理)やそばがき汁、じゃがいももちなどの調理体験を行い、ゴギの塩焼き、古代米入り庄原産の新米や漬物などを味わいました。また、「農」がいかに大切かという「旬の話」を聞いたり、野菜を使って虫かごを作った

りました。参加者は「庄原のいいところは自然と豊かな農産物だと思っ。食を楽しむイベントを続けてほしい」と話していました。

今後も食農ネットワーク庄原は、庄原の「食」と「農」を見つめ直し、地域資源を活用した交流事業を行うなど、農業振興の推進と庄原の魅力を発信していきます。

**高齢者課
福祉**

市長が長寿者を表敬訪問
 100歳以上に敬老祝い金を贈呈

滝口季彦市長が10月7日・8日・12日の3日間、本年度100歳になる長寿者宅を訪問し、長寿をお祝いして敬老祝い金を贈りました。また、内閣総理大臣から贈られる祝い状と記念品も伝達しました。

7日に祝い金を受け取った宮内町の山崎タツ子さんは「若いときは農業で苦労したが、その苦労が丈夫な体を作ってくれました。毎日、食事をおいしくいただいています」と長寿の秘訣を語り、家族は「少し耳は不自由になりましたが、とても元気で暮らしています。いつまでも元気でいてほしい」と話していました。

**工課
観光**

センスあふれる作品がまちを彩る
 しよつかいとやまガーデンングコンテスト

しよつかいとやまガーデンングコンテストの表彰式が10月4日、市役所市民ひろばで行われました。市内から、ハンギングバスケットの部で43作品、コンテナガーデンの部には17作品の応募があり、各部門6作品と審査員特別賞1作品を合わせた13作品が入賞しました。審査員を代表して審査講評を行った大谷朱



滝口市長と談笑する山崎タツ子さん

今年の祝い金贈呈対象者(明治44年3月31日以前に生まれた方)は71人、市内最高齢者は107歳の方となっています。

美さんは「まごころが満ちている庄原らしい素朴で温かいコンテスト。住んでいる人々が散歩したくなる花巡りの街並みになれば、観光客が回ってみたいなる道につながる」と話し、今後の取り組みに期待していました。

しよつかい花会議は、参加する人が愉快で楽しいことをコンセプトに、身近な玄関先から「花と緑のまちづくり」を広げていきたいと考えています。今後もガーデンング技術の研修会やコンテスト、花好きの交流会などを企画していきたいと思っておりますので、ぜひご参加ください。お問合せは、商工観光課商工振興係(☎0824-73-1178)まで。



ハンギングバスケットの部
 大賞作品「風の流れ」
 佐々木帛代さん(川手町)作



コンテナガーデンの部
 大賞作品「さとやまの風景」
 森久光子さん(市町)作